

第2学年 生活科学習指導案

日 時：令和4年6月15日第5校時

対 象：第2学年1組25名

授業者：関根 夕紀

会 場：2年1組教室

1 単元名 まちが大すきたんけんたい

2 単元の目標

地域の様々な場所を探検したり、公共施設や公共物などを利用する活動を通して、地域やそこで働いている人々について考えたり、公共施設などのよさや働きを捉えたりすることができ、自分たちの生活は様々な人や場所と関わっていること、身の回りにはみんなが使うものがあること、それらを支えている人々がいることが分かり、それらに親しみや愛着をもち、適切に接したり、安全に正しく利用したりできるようにする。

3 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
地域に関わる活動や公共施設を利用する活動を通して、自分たちの生活は様々な人や場所と関わっていることと、身の回りにはみんなが使うものがあることやそれらを支えている人々がいることが分かっている。	地域に関わる活動や公共施設を利用する活動を通して、地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々について考えたり、公共施設などのよさや働きを捉えたりしている。	地域に関わる活動や公共施設を利用する活動を通して、それらに親しみをや愛着をもち、適切に接したり安全に正しく利用したりしている。
ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 身の回りにはみんなが使うものやみんなのための施設や場所があることが分かっている。 ② 様々な人々に関わったりする際、相手や場に応じた挨拶や言葉遣いをしている。 ③ 地域で生活したり働いたりしている人々や様々な場所が自分たちの生活を支えていることや、それらが自分と関わっていることが分かっている。 ④ 地域の親しみを感じる人々	① みんなで使うものや場所を思い起こしながら、それらの特徴を捉えている。 ② 地域の場所におけるふさわしい行動を予想しながら、活動の計画を立てたり、約束を決めたりしている。 ③ 行きたい場所や会ってみたい人、してみたいことを思い描きながら、計画を立てている。 ④ 地域の場所や人々を自分の生活と関連付けながら、捉えている。	① 公共物や公共施設への関心や期待をもちながら、それらと繰り返し関わろうとしている。 ② 地域の場所や人々に応じて、適切に接したり安全に生活したりしようとしている。 ③ 地域の場所や人々への親しみや愛着をもって、それらのよさを大切にしようとしている。

<p>や愛着のある場所が増えたり、それらの人々や場所が自分たちの生活を楽しくしたりしていることに気付いている。</p>	<p>⑤ 好きになった場所や親しくなった人々などのことを振り返りながら、友達や地域の人々に知らせている。</p>	
---	--	--

4 指導観

(1) 単元観

本単元は学習指導要領 生活科の内容 (3)「地域に関わる活動」(4)「公共物や公共施設を利用する活動」に基づいて設定した。

小学校学習指導要領 生活科編 第3章 生活科の内容

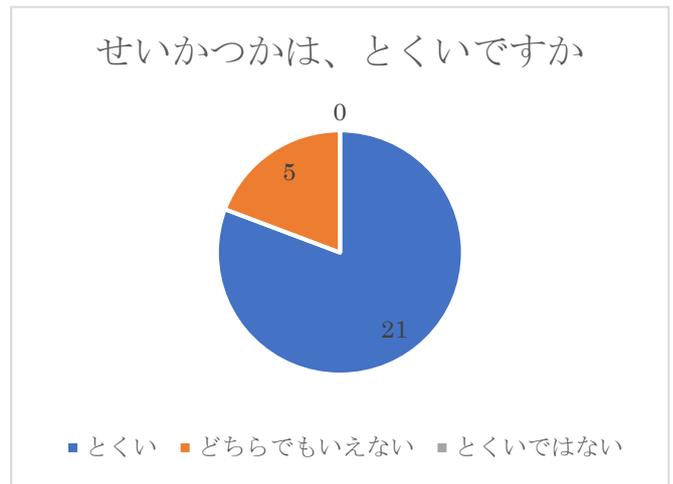
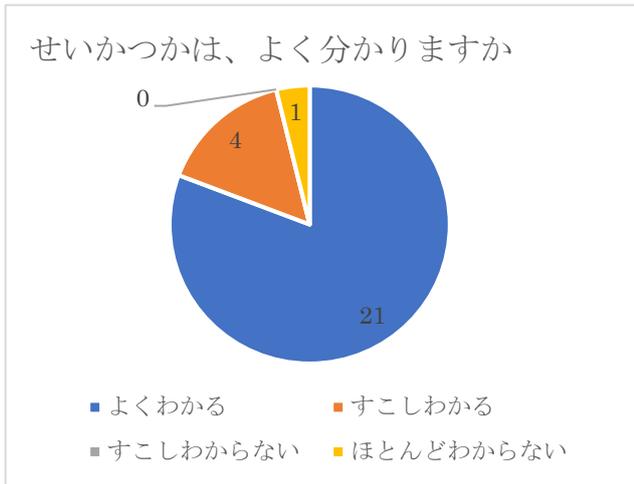
- (3) 地域に関わる活動を通して、地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々について考えることができ、自分たちの生活は様々な人や場所と関わっていることが分かり、それらに親しみや愛着をもち、適切に接したり安全に生活したりしようとする。
- (4) 公共物や公共施設を利用する活動を通して、それらのよさを感じたり働きを捉えたりすることができ、身の回りにはみんなで使うものがあることやそれらを支えている人々がいることなどが分かるとともに、それらを大切にし、安全に気を付けて正しく利用しようとする。

児童は地域の中で、様々な人や場所、出来事と関わりながら生活している。しかし、その関わりを自覚的に捉えている子どもは少ないように思われる。本単元では、改めて自分たちが住んでいる地域を見つめ直し、地域やそこにいる人々のよさを感じ、地域に対して親しみや愛着をもてるようにしていく。すなわち、児童の既存の知識と、意外と知らなかったずれを顕在化させることにより、「見てみたい。」「行ってみたい。」「どうしてなんだろう。」という思いを引き出し、気付きや間いをつなげることで、「この町が大すき。」「もっと町のことや、あの人のことを知りたい」と親しみや愛着をもてるようにしていく。

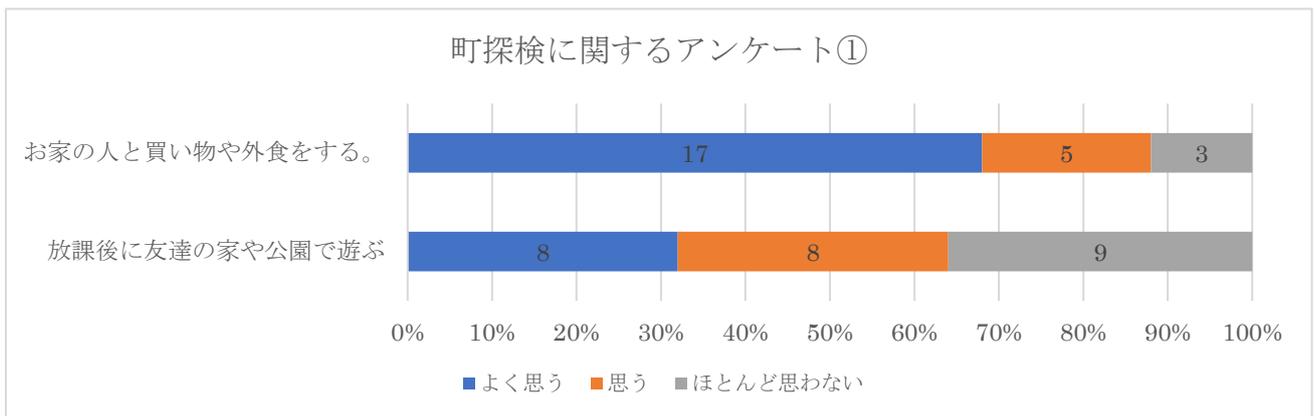
(2) 児童観

本校の研究推進委員会で行ったアンケート分析によると、本学級の児童は、生活科に対する理解度が高く、得意としている児童が多いことが分かる。日頃の授業の様子でも、「育てる」「探検する」「作る」などの体験活動に興味・関心をもちながら意欲的に取り組んでいる姿が多く見られる。しかし、授業の振り返りなどからは、「たくさんのだんぐりを探して楽しかった。」「お家の人が喜んでくれてうれしかった。」というような比較的簡易な感想が多く、生活科の目標にあるような「活動や体験の過程において、社会及び自然がもっている固有な特徴や本質的な価値に気付く」ことには課題が見られる。アンケートで生活科に肯定的な意見が多いのは、生活科のゴールが児童と共有できていないためと考えられる。授業中には、「だんぐりにはいろいろな形や色のものがある。」「お皿洗いで泡を残さず拭くにはコツがある。」などと気付いたことを話し合っている児童がいるにもかかわらず、その気付きが広がらず、また、児童自身もその価値に気付かないことも多い。本単元では、その手だてを「六小独自の学力向上を図るための調査」や「児童・生徒の学力向上を図るための調査」から児童の

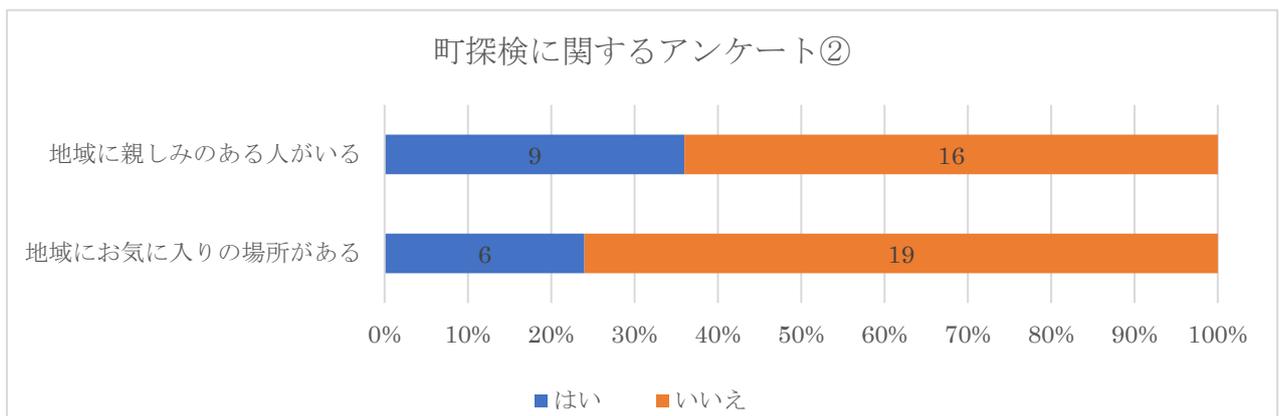
実態を探り、授業改善に生かしていく。



まず、「六小独自の学力向上を図るための調査」からみる本単元における児童の実態であるが、「お家の人と買い物や外食をする」の質問に対して、「よく行く」「ときどき行く」と答えた児童が合わせて88%であった。また「放課後に、友達の家や公園で遊ぶ。」の質問では、「よく遊ぶ」「ときどき遊ぶ」に答えた児童が68%であった【町探検に関するアンケート①】。

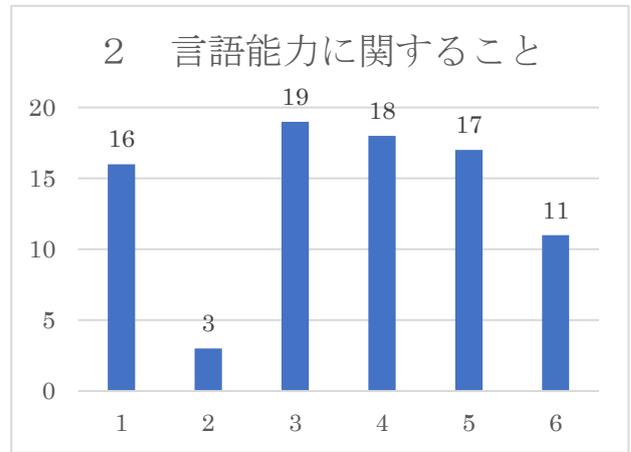
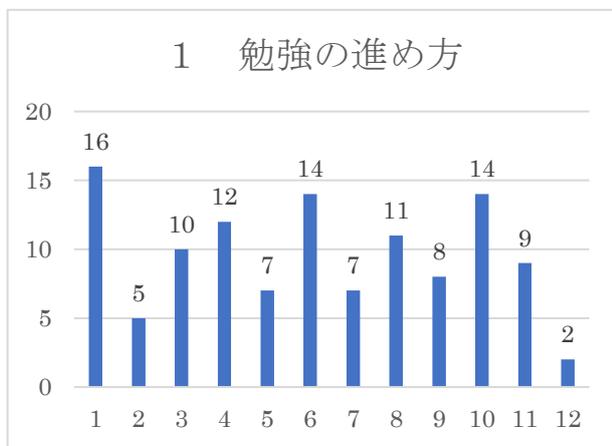


しかし、一方で「地域に親しみのある人がいる。」の質問に対して、「いる」と答えた児童が、36%であり、「地域にお気に入りの場所がある。」と答えた児童は、24%であった。このことから、児童の中には、地域の様々な場所とあまり関わっていない児童も少なからずいるということと、地域と関わっている児童でもそのほとんどは、地域の人とは深く触れてはおらず、自分たちの町について親しみや愛着を感じていない児童が多く見られるということが考えられる【町探検に関するアンケート②】。



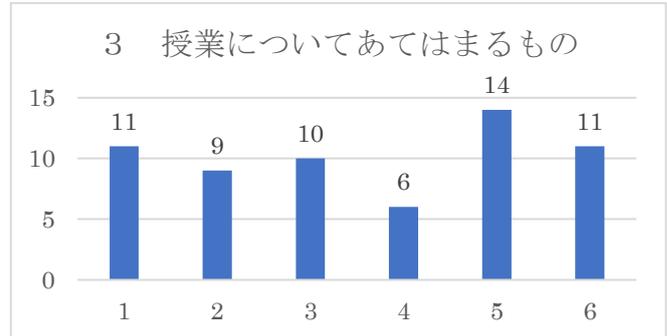
本単元では、意識的に地域を見ることで、地域には様々な場所があることを知り、そこには働く人の思いがあり、そのおかげで様々な人が集う場所になっていることに気づき、学びを深めていきたい。

さらに「児童・生徒の学力向上を図るための調査」では、次のような課題が見られた。それは、交流に関する項目である。「1 勉強の進め方」の(7)「自分が考えたことを積極的に友達や先生に伝えている。」の質問に肯定的に答えた児童が7名であり、「3 授業についてあてはまるもの」の(4)「授業では、友達と考えを交流している。」の質問に肯定的に答えた児童は6名であった。また、「2 言語能力に関することについて」の(2)「友達の話を書くときには、メモをとっている。」の質問に肯定的に答えた児童が3名であることや「1 勉強の進め方」の(9)「勉強していて分からないことがあればすぐに聞くようにしている」の質問に肯定的に答えた児童が8名であるように、話し合いに意欲的になれないのには、話し合いをするための技能や態度に課題が見られるからだと考えられる。



1 できるようになるまで繰り返し勉強をしている	7 自分が考えたことを積極的に友達や先生に伝えようとしている。
2 分からないことがあると勉強を続けられなくなる	8 友達や先生に相談しながら考えることはあまりない。
3 勉強中に関係ないことを考えてしまう	9 勉強をしていて分からなければ、すぐに聞くようにしている。
4 テストで間違った時、なぜ間違えたかを考えることはあまりない。	10 どうしてそうなるかという理由を考えながら勉強している。
5 友達と考えが違ったときに、質問をして友達の考えをきくことがほとんどない。	11 答えがあてれば、考え方が間違っても気にせず勉強をしている。
6 分からないときは友達や先生に相談している。	12 意味が分からなくても、そのままおぼえてしまうことが多い。

1 発表や話し合いの時は話す内容や順序を考えてから話している	4 友達を書いた文章のよいところをまねしようとしている
2 友達の話し合いを聞くときはメモを取っている	5 文章が分かるように、大切だと思ったところに線を引きながら読んでいる。
3 自分の書いた文章を読み返している	6 文章を読んで分かったことや、考えたことなどを友達に説明している。



1 授業の問題は、頑張ればできることが多いと思う	4 授業では友達と考えを交流している
2 授業では前の時間までに勉強を確認する時間があると思う	5 授業では自分のわかったことや考えたことを友達や先生に説明する時間があると思う
3 授業では、ほかの勉強をいかにして考える時間があると思う	6 授業では勉強したことを振り返っている

【クロス集計の結果から見る有効な手だて】

クロス集計の結果から見た有効な手だてであるが、「言語能力に関すること」についての質問4「友達が書いた文章のよいところをまねしようとしている。」と質問6「文章を読んで分かったことや、考えたことなどを友達に説明している」をクロス集計してみると、2つの質問とも「はい」と答えた児童は11名おり、友達のまねをすることが、発言への自信となっていることが分かった。

また、「授業についてあてはまるもの」について質問1「授業の問題は、頑張ればできることが多いと思う」と質問6「授業では勉強したことを振り返っている」のクロス集計の結果からは、2つの質問とも「はい」と答えた児童は8名おり、学習への自信と振り返りには、相関関係にあることが分かった。

さらに、課題が見られた「授業では友達と考えを交流している」と「授業では勉強したことを振り返っている」のクロス集計の結果からは、交流をしている児童は、比較的振り返りをよくしていることが分かった。

このことから、グループ活動によって、自らを振り返ったり前向きに学習に取り組んだりする学習への意欲が高まると考えられる。グループ活動では、「友達のまねをする」というペア学習から丁寧に指導し、交流への自信をもたせる。交流では、自分の考えをもち、友達との共通点や相違点に気付かせることで、学びを自覚し振り返ることができるようにする。主体的に学びに向かう児童を育てていくためには、このような細やかな支援をしながら、交流と振り返りを充実させることが大切だと考える。また、これらのアンケート結果からは、協働的に学習し、振り返りによって学びを自覚している児童もすでに数名いることが考えられる。その学びに向かう姿勢をクラス全体に広げていながら学習を進めていくことが大切であると考えられる。

[分析結果を基に教師が意識する視点]

- ・生活科に対する意欲が非常に高いことから、児童が主体的・協働的に活動する場面を多く設定する。
- ・「気付く」ことに課題がある児童が多いことから、ICT 機器を活用して資料を充実させたり、問いを精選したりする。
- ・話し合う技能や態度に課題がある児童が多いことから、ICT 機器を活用して、情報を確実に記録したり、児童同士で気付きを共有したりできるようにする。また、その気付きを振り返る時間を設定し、児童が学びを自覚し、学習を積み重ねていくことができるようにする。

【「2言語能力に関することについての(4)と(6)のクロス集計】

		(6) 説明する	
		はい	いいえ
(4) まねして いる	はい	11人	7人
	いいえ	0人	7人

【「3 授業についてあてはまるものについての(1)と(6)のクロス集計】

		(6) 振り返り	
		はい	いいえ
頑張 れば でき る	はい	8人	3人
	いいえ	3人	11人

【「交流と振り返りのクロス集計】

		3の(6) 振り返り	
		はい	いいえ
交 流	はい	5人	1人
	いいえ	6人	13人

(3) 教材観

本単元「まちが大すきたんけんたい」は、2学年2学期の生活科「えがおのひみつたんけんたい」と関連付けられた単元である。「まちが大すきたんけんたい」では、学校の回りの様々なお店や施設を調べ、床地図などにまとめる活動を通して地域の様子を全体に捉える。そして「えがおのひみつたんけんたい」では、お店や施設で働く人へのインタビュー活動などを通して、地域の人の温かさを触れていく。本単元は、このような系統的な指導に配慮しつつ、児童の興味・関心に応じて柔軟に学習に取り組ませていくことが大切である。

福生第六小学校の近くには、やなぎ通りや加美平立体通り、産業通りの交通量の多い3つ大きな道路があり、それらの道路沿いには、スーパーやコンビニ、飲食店、スポーツ用品や自動車を販売するお店など様々な場所がある。また、大きな道路から少し中に入ると、公園などの公共施設、散髪屋や整体などの個人経営のお店が多くある。それらは、様々な人が集まる憩いの場となっており、子どもたちはインタビューなどを通して、人の温かさに触れることができると考える。

「品物が豊富で便利なお店がたくさんあったり、人がつながる場所もたくさんあったりする。」と自分との関わりを考えながら、学習後には地域に対する親しみや愛着をもてるようにしたい。

単元名に「たんけんたい」とあるように、児童は実際にフィールドワークをして、町のことについて調べていく。教室から離れて学習するフィールドワークは、児童にとって魅力的な活動である。その思いを大事にしながら、計画を立てたりまとめたりする、事前や事後の学習の充実を図り、児童が見通しをもち、単元を通して主体的に取り組むことができるようにしたい。

また学習を進めるにあたっては、友達と話し合っ探検コースを決めたり、グループで交通ルールやインタビューのマナーを守ったりすることが大切になる。互いに気持ちよく生活できるという体験を重ね、地域の人たちと適切に接することの大切を感じ、その接し方を身に付けることができるようにしていく。

5 研究主題との関連

(1) 研究主題

学びに向かう力を育むための指導の在り方を考える

～「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の分析を通して～

(2) 研究主題を受けた目指す児童像

○自らの学習を調整しながら、粘り強く、課題に取り組むことができる子

[学びに向かう力が育成された児童の姿]

○課題に対して、あきらめずに繰り返し取り組むことができる。

○課題に失敗した際に、方法を変えて繰り返し挑戦することができる。

○課題に取り組む際に、自分である程度の目安をたてて取り組むことができる。

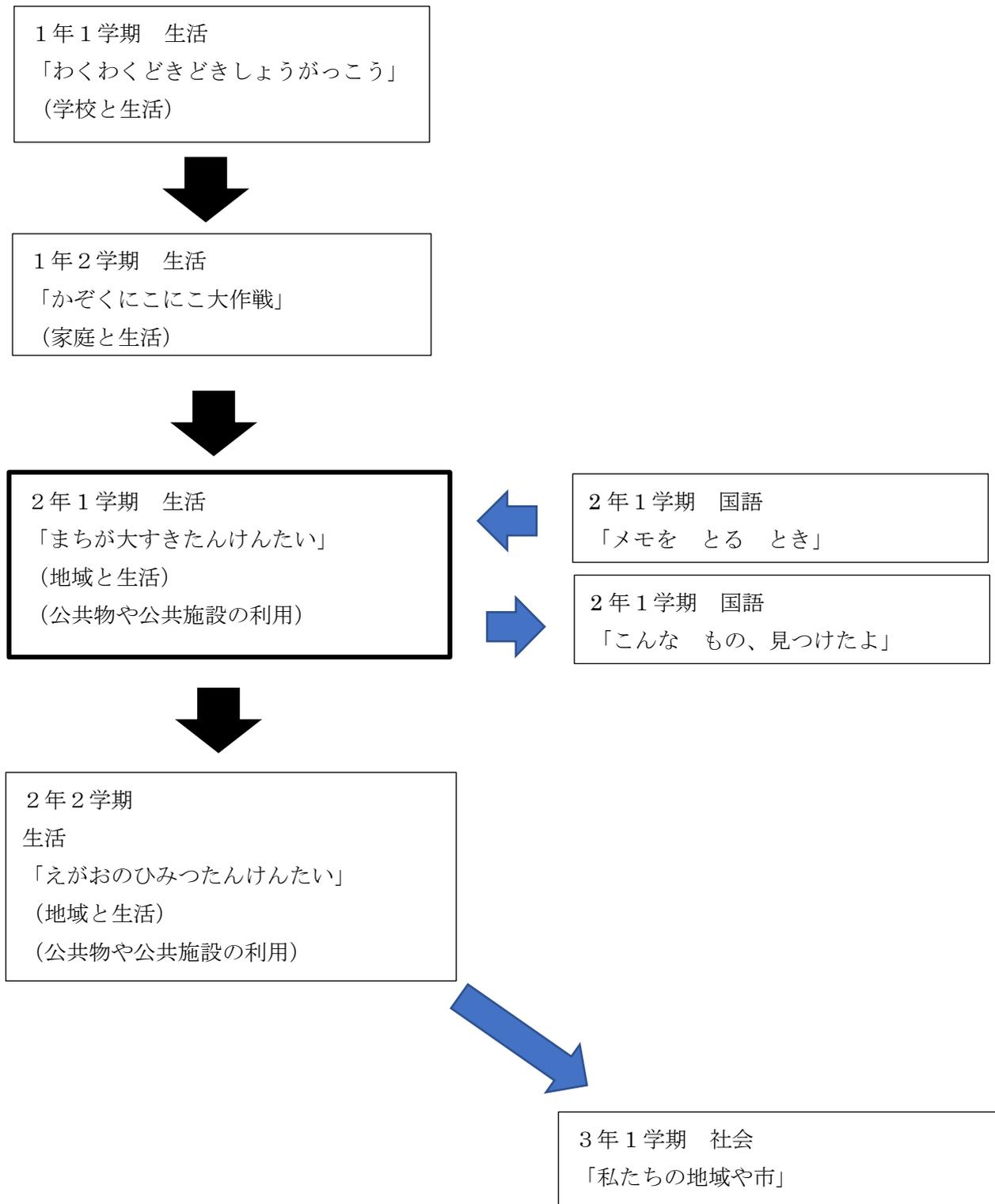
(3) 目指す児童像に迫るための研究仮説

「児童・生徒の学力向上を図るための調査」から、児童の実態を把握し、実態に適した学習内容の工夫をすることで、児童が意欲的に学習に取り組むようになるであろう。

- (4) 目指す児童像に迫るための具体的な手だてと、ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度
- ア グループ活動の充実【すすんで参加する態度】【コミュニケーションを行う力】
- 東西南北で、それぞれグループをつくり、自分たちで探検の道順を決めることで、主体的に学習に取り組むことができるようにする。グループで道順を決める際には、一人一人の思いや願いを受け止めて、共通点や相違点を見だし、グループで合意形成を図っていく。またグループ活動を行うときには、単元を通してオクリンクを活用し、自分の考えを必ずオクリンクに送り、全員の考えを共有し、それを見て比較することができるようにする。
- イ フィールドワークにおける役割分担【他者と協力する態度】
- フィールドワーク当日は、道案内係、記録係、マナー係、安全係など役割を分担する。役割を分担することで、個性を生かして、安全で充実したフィールドワークにしていく。そのために、事前指導で、それぞれの役割を明確にし、必要な交通ルールやマナーを身に付けることができるようにする。
- ウ 探検カードと床地図の活用【未来像を予測して計画を立てる力】
- 調べたことを個別でまとめる「探検カード」をクラス全体でまとめる「床地図」に活用していく。そのことで、協働的に学習に取り組むことができるようにする。また、床地図を俯瞰的に見ることで、調べたいことを見付け、すすんで学習することができるようにする。
- エ ICT機器の活用【多面的、総合的に考える力】
- ① タブレット型端末
- フィールドワークでは、タブレット型端末のみをもって調べ学習を行う。準備してきたものを確かめたり、メモをとる、写真を撮るなどの記録をしたりする活動をタブレット型端末1台でできる技能を身に付ける。また、フィールドワーク中や、事後の学習で記録を共有したり（Teamsの活用）、フィールドワークでは調べきれなかったことを調べたり（Google mapの活用）して、学習の充実を図っていく。
- ② 大型テレビ
- 児童の成果物を大型テレビに映し、児童のがんばりやよさを共有する。共有することで、生活科の見方・考え方を広げたり、まとめる技能を高めたりすることができるようにする。
- オ 振り返りの充実【つながりを尊重する態度】
- 終末に「はじめて知ったこと」「次にしてみたいこと」などを発表する場を設定する。グループごとに行い、全員が言うことができるようにすることで、自分の思いや願いを具現化して主体的になったり、友達の思いや願いに共感して意欲的になったりすることができるようにする。

6 年間指導計画における位置付け

*カリキュラム・マネジメントの視点からの位置づけ



7 単元の指導計画と評価計画 (全 11 時間)

次	時	目標	主な学習活動	評価規準(評価方法)		
				ア	イ	ウ
第一次	第 1 時	○地域の場所や人々についてみんなと交流し、身の回りに親しみを感じる場所や気になる場所があることに気づき、地域への関心をもつことができるようにする。	○自分たちが住んでいる町について、知っていることを伝え合う。 ○見学するお店や公共施設について話し合う。 ○お店や公共施設について調べて、1年生に発表することを知る。	①		①
第二次	第 2 時 第 3 時	○お世話になっている人々や楽しい場所などをお気に入りのことを紹介し合い、町に対する関心を高めることができるようにする。	○町の中で、お気に入りの場所やお世話になっている人について、自分なりの理由や経験を発表する。 ○みんなで行ってみたいところについて話し合い、探検に行く場所を決める。		①	
	第 4 時 第 5 時 (本時)	○探検の場所や目的を明確にして話し合い、自分が伝えたい場所や人のいる場所、安全な行動やマナーに気づき、友達と協力して探検の計画を立てることができるようにする。	○探検に行く目的について話し合い、計画を立てる。 ○見学するお店や公共施設への道順や約束について話し合う。 ○話し合ったことや、自分の考えについて「まちたんけん計画カード」に記録する。		② ③	
	第 6 時 第 7 時	○自分の生活と関連付けながら、安全な行動やマナーを守って探検し、これまで知らなかった場所や人々の存在に気づき、地域への新たな発見ができるようにする。	○探検するときに気をつけることや、約束、探検のめあてを確認する。 ○店の様子を外から見て、友達が紹介したことを確認したり、新たな発見をしたりする。 ○感想や気付いたことをカードや探検マップに書き加える。			②

	第8時 第9時	○地域の特徴や発見したことを友達と伝え合い、自分の身の回りには、様々な場所や多様な人々が生活していることに気付き、地域への理解を深めることができるようにする。	○地域の店や公共施設を探検して、諸感覚を使って観察したり、そこで働く人の話を聞いたりしたことを「探検カード」にまとめる。 ○書いた「探検カード」をもとに自分の気付きや経験を友達と伝え合い、「床地図」にまとめる。	② ③	④	
第三次	第10時	○心にとまった場所や人々を伝え合い、地域には様々な場所があり、多様な人々が生活していることに気付き、地域の役割や特徴を捉えることができるようにする。	○カードに気付きや発見を絵や文で書き、床地図に貼ったり、友達のカードをを読んで感想を伝え合ったりする。 ○これまでに書いたカードを振り返り、新たに見付けたことや考えたことを話し合う。		⑤	
	第11時	○探検で感じたことや、もっと知りたいことなどを伝え合い、地域の人々や様々な場所が自分の生活を支えていることが分かり、地域への愛着を深めることができる。	○地域の自然や人、施設などのよさについて考えて話し合う。 ○地域の店、施設、人々と自分の生活との関わりについて考えて話し合う。 ○2学期生活科「えがおのひみつたんけんたい」への見通しをもつ。	④		③

8 本時（全12時間中の第5時）

（1）本時の目標

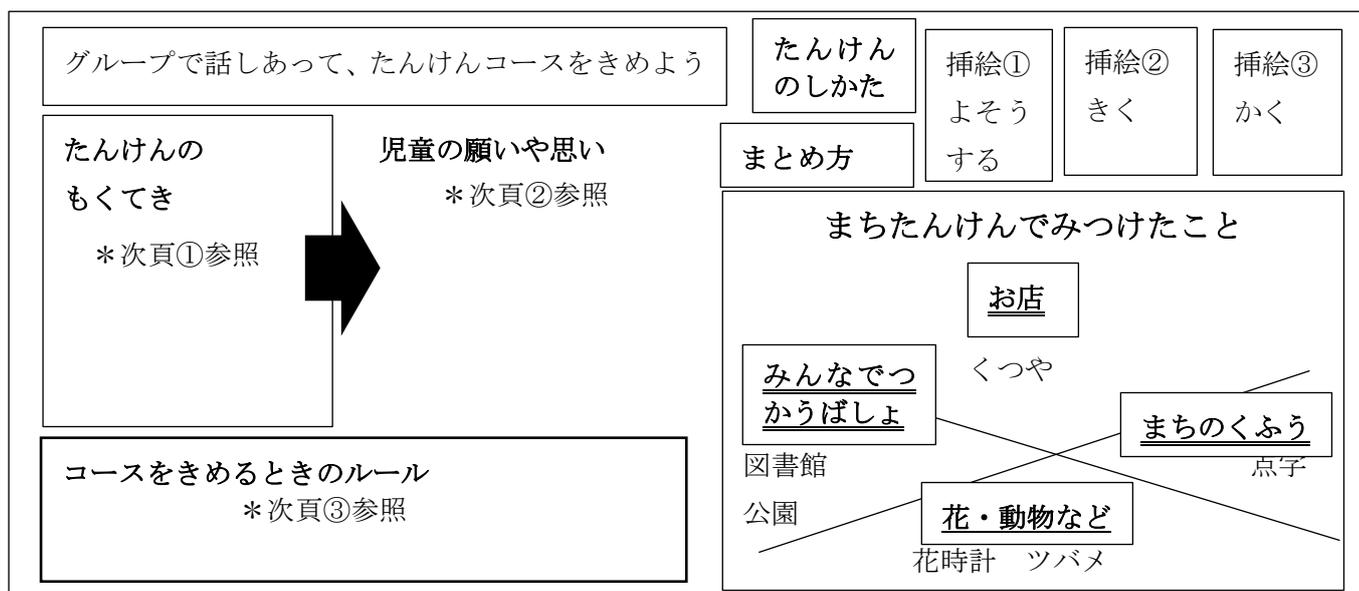
○探検の場所や目的を明確にして話し合い、自分が伝えたい場所や人のいる場所に気付き、友達と協力して探検の計画を立てることができる。

（2）本時の展開

時間	○学習活動 ・予想される児童の考え	◇指導上の留意点 ◆配慮事項	△評価規準 (評価方法)
導入 (5分)	○前時までの学習を振り返る。 ○本時の活動のめあてを知る。 ・楽しそうだな。 ・グループで、上手に話し合わなければいけないな。	◇ワークシートを振り返り、自分が調べるお店や公共施設を確認させる。 ◇床地図を大型テレビに掲示し、話題を可視化・共有化できるようにする。	
<p>グループではなしあって、たんけんコースをきめよう。</p>			
展開 (35分)	○探検に行く場所や目的、約束などについて話し合い、計画を立てる。 ・おもしろいことや不思議なことを見付けるため。 ・気になるお店やお店の「? (ハテナ)」を探すため。 ・武蔵台学童へ行って遊んでみたい。 ・駅前の交番に行って、警察官に「ありがとうございます」って言いたい。 ○簡易地図を利用し、道順などについて話し合う。 ・図書館に行ってから駅前の交番に行こう。 ・みんなに人気のパン屋さんと和菓子屋さんに行こう。 ・どんぐり公園に行って、夏の公園の見どころを探してみよう。 ・1時間で回りきれかな。	◇黒板に、「探検の目的」を掲示し、目的から児童がやりたいことを確認し、一人一人が町探検への意欲を高めることができるようにする。 ◇黒板に「探検のしかた」や「まとめ方」を掲示し、探検の見通しをもち、一人一人が道順を考えることができるようにする。 ◆道順を考えることが難しい児童には、個別に言葉掛けをする。 ◇タブレット型端末のオクリンクを活用して、グループ全員の考えを共有し、友達の見解を受け止めながら、グループの探検コースを決めることができるようにする。 ◆難しい児童には、グループで教え合うよう言葉掛けをする。	△これまでの学習経験を生かして、探検する場所などを話し合っている(行動観察)。 △探検への関心と期待感をもって計画を立てている。(ワークシート) 【イ③】

	<p>○グループで決まった道順を全体で共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私たちのグループでは、みんながあまり行ったことのない道に行って、様々なお店やものを見付けたいと思いました。 ・僕たちのグループは、武蔵野台東公園のとなりの体育館に行って、どんなイベントがあるのか調べたいと思いました。 	<p>◇必要に応じて、児童が着目しているお店や公共施設をインターネット検索し、写真を確認しながら、グループの願いや思いを全体に共有できるようにする。</p> <p>◇町探検で調べたことは、床地図にまとめることを確認し、自分以外でのグループの期待ももてるようにする。</p>	
まとめ (5分)	<p>○話し合ったことや、自分の考えについて「まちたんけん」計画カードに記録し、グループで発表する。</p>	<p>◇グループのリーダーが司会役となり、グループの全員が町探検への願いや思いを伝えることができるようになる。表現することが難しい児童には、個別に友達の意見に共感したことを話したり書いたりしてもよいことを言葉掛けする。</p> <p>◇話し合いの仕方がよかったグループについて、全体に価値付けし、協働的に取り組む態度を身に付けることができるようにする。</p>	

(3) 板書計画



板書①

たんけんのもくてき

- ・おもしろいことや不思議なことを見付ける。
- ・気になるお店やそのお店の「? (ハテナ)」を見つける。
- ・公園のおすすめポイントを見つける。
- ・気になる人に会いに行

板書②

児童の願いや思い

- ・武蔵台学童へ行って遊んでみたい。
- ・お店のいっぱいある大きな道路を歩いてみたい。
- ・武蔵野台東公園の回る滑り台で遊んでみたい。
- ・駅前の交番に行って、警察官に「ありがとうございます」って言いたい。

板書③

コースをきめるときのルール

- ・歩いて1時間で帰って来られるコースにする。
- ・途中で必ず公園で、休憩できるようにする（できればトイレのあるところ）。
- ・人のいないところには、入らない。

(4) 授業観察の視点

- タブレット型端末を活用して、町探検への道順を考えた活動は、全員の児童が考えを共有したりグループで1つの考えにまとめたりすることに適切であったか。
- 黒板の掲示物は、児童が自分の考えをもつための手だてとなっていたか。
- 振り返りの場面で、グループで発表する活動は、共感的な雰囲気話し合う中で、町探検への意欲を高めることができていたか。また、この活動が生活科における気付きの手だてとなっていたか。

別添資料

本単元「まちが大すきたんけんたい」と関連単元「えがおがいっぱいまちたんけん」で期待する児童の姿
○学びに向かう児童の姿

・町探検で、農作業をしている人を見つけ、「何を作っているのかな。教えてもらいたいな。」という思いをもち、インタビューを通して、「一番忙しいのは9月と10月なんだって」「秋になったら、私もこの畑でとれたタマネギを食べてみたいな」「教えてもらったおすすめ料理をつくってみたい。」という思いをもつ。

・町探検で、「面白い品物があるんだよ。」「初めて見付けて驚いたよ。」と気付いた児童が、そこで生活したり働いたりしている人々と繰り返し触れ合うようになる。そして、何度も繰り返し関わるうちに「お客さんがよるこんでくれるのがうれしい」「材料を工夫し、心を込めて作っている」というその人の思いに触れ、「わたしたちの町には素敵なお客さんがいっぱいいるんだ」と気付く。

・町探検を通して、「おじさんはいつも元気だな」「お姉さんにみたいになりたい」など、それらの人々に心を寄せ、「わたしも頑張りたい」と、夢や希望をもつ。

・公園を利用し、「公園には楽しい遊具がたくさんあるから、また来たいな。」といういった思いや願いをもち、それらを利用し関わる中で「お気に入りの場所があるんだ。お休みの日にも遊びに来るよ」「公園にはいろんな人がいるんだね。お掃除してくれる人と話したりしたよ。」などと特徴を見付けたり、管理する人と触れ合い親しみをもったりする。そして、利用者だけでなく管理者にも視点を移しながら「気持ちよく使えるようにしてくれていうんだね」「公園で遊ぶの大好き」などと、自分たちの生活を豊かにしていく。さらに「管理人さんみたいに公園に大切にしよう」という思いをもつ。

・図書館を利用し、「楽しかったな。また行って遊びたいな。」「本を読みにもた図書館に行こう」「働いている人が優しく教えてくれたよ。とっても嬉しかったな」「みんなで使える場所がたくさんあることが分かったよ。私たちの町ってすごいね」などのよさを実感する。さらに「ほかの人に迷惑をかけないように静かにしよう」「いつもお世話になっている管理人さんにお礼をしよう」などと提案する。

【小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 生活編抜粋】

○学ぶ過程で育む汎用的資質能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力）

言語能力	…	・様々な資料に興味をもち、事象を観察して、自分のお気に入りのものを見付ける力 ・自分の考えをまとめたり、他者の思いをうけとめながら自分の思いを伝えたり、学級やグループで目的を共有して協働したりする力
情報活用能力	…	・タブレット型端末を適切に用いて、必要な情報を得たり、必要に応じて保存・共有したりすることができる力 ・「探検カード」に必要な情報をまとめたり、Xチャートを活用して情報を整理・比較したりする力 ・大型テレビを指さしながら得られた情報を分かりやすく発信・伝達する力
問題発見・解決能力	…	・資料から調べたいことを見い出し、解決の方向性を理解し、見通しをもちながら取り組む力 ・1時間ごとに学習を振り返って到達点を確認し、自己のめあてをもちながら試行錯誤して学習を進めていく力

【小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則】参考